

令和2年度 桐生市国民健康保険

第2期保健事業実施計画（データヘルス計画）

中間評価及び見直し

桐 生 市

（令和3年3月）

1 桐生市国保の状況

令和2年度（4月1日現在）の桐生市の人口は109,490人、高齢化率（65歳以上）は35.67%である。国保の被保険者数は26,072人で、市の人口に占める加入率は23.8%、平均年齢は54.8歳である。平成29年度と比較すると、被保険者数が平成29年度の30,108人から4,036人減少し、平均年齢は平成29年度の53.5歳から1.3歳上昇しており、今後も高齢化が進むと考えられる。

2 医療費分析

平成29年度作成の桐生市データヘルス計画によると、生活習慣病に係る医療費について、国保加入者の平成28年度標準化医療費の状況から算出したデータでは、外来患者数が男女ともに多い順に高血圧41,227件、筋・骨格疾患26,064件、糖尿病22,592件で、外来医療費が高い順においては、糖尿病6億2,529万円、がん5億9,164万円、高血圧5億8,339万円となっている。

これらの結果から桐生市では、外来における患者数及び医療費の上位を占める高血圧と糖尿病を中心とした生活習慣病重症化予防対策を実施していくことが必要であると考え、健診の周知徹底や市民の意識喚起や地域に密着した支援の充実を目的とした事業について、積極的に取り組んでいくこととした。

令和元年度の国保加入者の標準化医療費の状況においては、外来患者数が男女ともに多い順に、高血圧32,179件、筋・骨格疾患22,742件、糖尿病21,827件で件数は減っているが、外来医療費が高い順においては、がんが6億5,274万円と増加し、その他、糖尿病5億8,425万円、筋・骨格疾患4億3,650万円、高血圧3億8,619万円となっている。

3 第2期データヘルス計画の評価・見直しについて

本市は、平成30年3月に「第2期データヘルス計画（平成30年度～平成35年度）」を策定し、毎年8月に事業担当者が、各事業の評価・振り返りを実施している。今回、第2期データヘルス計画の事業評価・見直しを行う中で、厚生労働省が政策的に重視している事業である保険者努力者支援制度の共通指標の対象となっている事業を中心に、評価・見直しを実施した。なお、本計画内に「第3期特定健康診査等実施計画（平成30年度から平成35年度）」を盛り込み、それぞれの計画が相互に連携しながら推進していくものとした。

【努力者支援の共通指標】

- (1) 指標1 特定健診受診率・特定保健指導実施率・メタボ該当者及び予備群の減少率
- (2) 指標2 がん検診受診率・歯科疾患（病）健診受診率
- (3) 指標3 糖尿病等の重症化予防の取組の実施状況
- (4) 指標4 個人インセンティブ・分かりやすい情報提供
- (5) 指標5 重複服薬者に対する取組の実施状況

(1) 特定健診受診率・特定保健指導実施率・メタボ該当者及び予備群の減少率

① 特定健診受診率の実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目 標 値	—	40%	45%
対 象 者	20,669	19,828	19,208
受 診 者 数	8,221	7,874	8,694
受 診 率	39.8%	39.7%	45.3%

平成29年度から平成30年度までの特定健診受診率は、個別勧奨通知の他、広報やふれあいメール等、多種多様な周知を実施したが、依然受診率が横ばいの状況(39.7%~39.8%)であり、事務負担に対する効果を得ることができなかった。そこで令和元年度は、株式会社キャンサーキャンと群馬県国保連合会による「特定健診受診率向上共同事業」に参加し、「受診行動分析による個別受診勧奨事業」に取り組んだ。その結果、受診率は前年度と比較し、5.6ポイントアップした。個人の受診行動を分析し、必要な時期にアプローチしていくことがいかに大切かを学んだ。

●目標（令和2年度以降）

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目 標 値	45%	45%	47%	50%

前年度の実施状況から令和2年度は、主に40歳~50歳代をターゲットに個別勧奨通知を実施する他、医師会・実施医療機関の協力を得て定期通院者向け特定健康診査受診勧奨チラシを配布した。また、両面一枚紙のチラシをがん検診説明冊子とは別に作成し、郵送通知に同封した。しかし令和2年度は、新型コロナウイルスの影響から受診率の伸びが懸念されている状況となった。

令和3年度においては、定期受診者における未受診者受診勧奨を重点的に取り組み、更なる受診率向上を図りたいと考える。一度健診を受けると、翌年も健診を受ける率(=リピート率)が高くなることが明らかとなっていることから、今後も未受診者が健診を受けるチャンスをより一層増やしていきたい。なお、「特定健診受診率向上共同事業」への参加は、令和元年度から令和3年度までの3年間の予定とする。

① 特定保健指導実施率・メタボ該当者及び予備群の減少率の実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
目 標 値	—	40%	45%
実 施 率	10.4%	9.4%	11.3%
該当者・予備群の減少率	22.2%	20.2%	22.6%

平成29年度から令和元年度までの特定保健指導実施率は、電話、訪問、結果説明会等様々な方法でアプローチしてきたが、10%前後の値となっている。

●目標（令和2年度以降）

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目 標 値	15%	15%	20%	25%
該当者・予備群の減少率目標	20%未満	20%未満	19%未満	18%未満

目標値においては、国に合わせた指標にしていたため、実態に即していなかった。このため、今回の中間評価見直しを機に、令和2年度の保健指導実施率目標値を実現可能な実施率15%に変更し、生活改善につながるよう面談体制を構築することとした。また、新型コロナウイルス感染防止対策及び利便性確保のためリモート面談等、様々な指導ツールの使用を取り入れていく他、令和3年度からの3年間は特定保健指導受診勧奨事業を実施し、実施率を高めていきたいと考えている。

なお、メタボ該当者及び予備群の減少率においては20%~22%でほぼ横ばいであることから、保健指導実施率を上げることで、該当者の減少も図っていききたい。

(2) がん検診受診率・歯科疾患(病)健診受診率

① がん検診受診率の実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
胃がん	3.2%	3.2%	3.1%
肺がん	8.4%	8.1%	8.2%
大腸がん	10.2%	10.1%	10.8%
子宮頸がん	10.6%	11.2%	11.0%
乳がん	6.2%	6.6%	6.9%

受診率向上を目標に掲げ、厚労省が推奨する5がん検診と特定健診を、一体的に実施できる体制に構築した。また、若年層からの健康意識向上啓発事業であるピロリ菌検診の受診率は、平成30年度が5.7%、令和元年度が2.2%といずれも低い状況であった(別添参考資料参照)。

●目標(令和2年度以降)

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
胃がん	平成28年度の実績と比較し、平均受診率が1ポイント以上向上する。	平成29年度の実績と比較し、平均受診率が1ポイント以上向上する。	平成30年度の実績と比較し、平均受診率が1ポイント以上向上する。	令和元年度の実績と比較し、平均受診率が1ポイント以上向上する。
肺がん				
大腸がん				
子宮頸がん				
乳がん				

厚生労働省で掲げている各がん検診目標値50%には程遠い状況で、がんの外来医療費が増加している状況からも、がん検診受診率向上に関する取組みは必須であると考え。リコールを実施し、地道に受診率アップを図っていききたい。なお、20歳・25歳・30歳・35歳を対象としたピロリ菌検診においては、実施期間を5年間とし(令和4年度まで実施)、以降、40歳から5歳刻みで実施している胃リスク検診事業へ移行していききたい。

② 歯科疾患(病)健診受診率の実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
受 診 率	2.7%	1.8%	1.8%

毎年、6/1から10/31まで、20~70歳までの5歳刻みの市民を対象に「歯周病検診」を実施している。受診率は低迷状態が続いている。

●目標（令和2年度以降）

年 度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目 標 値	3.7%	2.8%	2.8%	4.7%

リコールの実施や薬剤師会等の協力を得て、情報ステーション等における受診勧奨チラシ配布やポスター掲示を検討していきたい。

(3) 糖尿病等の重症化予防の取組の実施状況

糖尿病等の重症化予防の取組の実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
特定健診受診者のうちHbA1c6.5%以上の人の割合	9.6%	10.5%	9.7%
医療機関受診勧奨通知発送者のうち医療機関を受診した人の割合	73.2%	57.1%	75.6%
新規透析導入患者数	14人	22人	14人
特定健診未受診者のうちレセプトデータで過去に糖尿病治療歴があり、直近1年間に受診歴がない人の検診対象者に占める割合	—	1.21%	1.11%

平成29年度から令和元年度までの糖尿病等の重症化予防の取組みにおいては、対象者の抽出基準を明確にし、保健師及び管理栄養士が保健指導を実施した。また、全ての糖尿病未治療者及び治療中断者に対し受診勧奨を行った。その後、対象者の受診歴を確認し、受診がない者には面談等を実施した。

●目標（令和2年度以降）

前年度対象者のフォローアップを行い、事業全体の流れを確立する。また、医師会の協力を得て事業を周知し、更なる利用者数の増加を目指したい。実施後は対象者の受診歴を確認し、受診がない者には面談等を実施し事業充実を図りたい。

(4) 個人インセンティブ・分かりやすい情報提供

健康教室等の開催数及び参加数実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
けんこう塾	9回・273人	9回・301人	8回・296人
出張！知っ得、なっ得セミナー (けんこう講座)	4回・137人	14回・559人	6回・131人
栄養セミナー	5回・96人	5回・96人	4回・62人
けんこうクッキング	10回・145人	10回・148人	10回・126人
けんこう広場	—	6回・57人 (黒保根地区のみ)	26回・190人 (旧桐生・新里) 10回・87人 (黒保根地区)
100点チャレンジ (ポイント事業)	—	90人 (黒保根地区のみ)	2,000人 (市全域)

各教室とも、健康に関心のある退職後年齢層の参加者が多く、リピーターの割合が高い。また平

成30年度には、地域に密着した支援の充実を図るため、「けんこう広場」を開始した。KDB分析による健診・医療データからみる地域の健康課題を各地区へフィードバックし、地域特性を活かしたデータヘルス事業を総合的な健康教育事業として展開した。実際、高血圧と糖尿病を中心とした生活習慣病重症化予防対策を中心に取り組んできた成果として、外来患者数は高血圧・糖尿病ともに減少している。

●目標（令和2年度以降）

教室参加者アンケートや100点チャレンジ（ポイント事業）等を通し、今後も参加しやすい教室づくりの検討や幅広い市民層への意識喚起を実施していく。また、分かりやすい情報を提供し、市民への周知徹底を図っていききたい。

（5）重複服薬者に対する取組の実施状況

●訪問指導事業実績

年 度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
通知数における訪問率	74.6%	79.2%	77.2%
受診習慣変容者率	25.4%	62.5%	64.7%

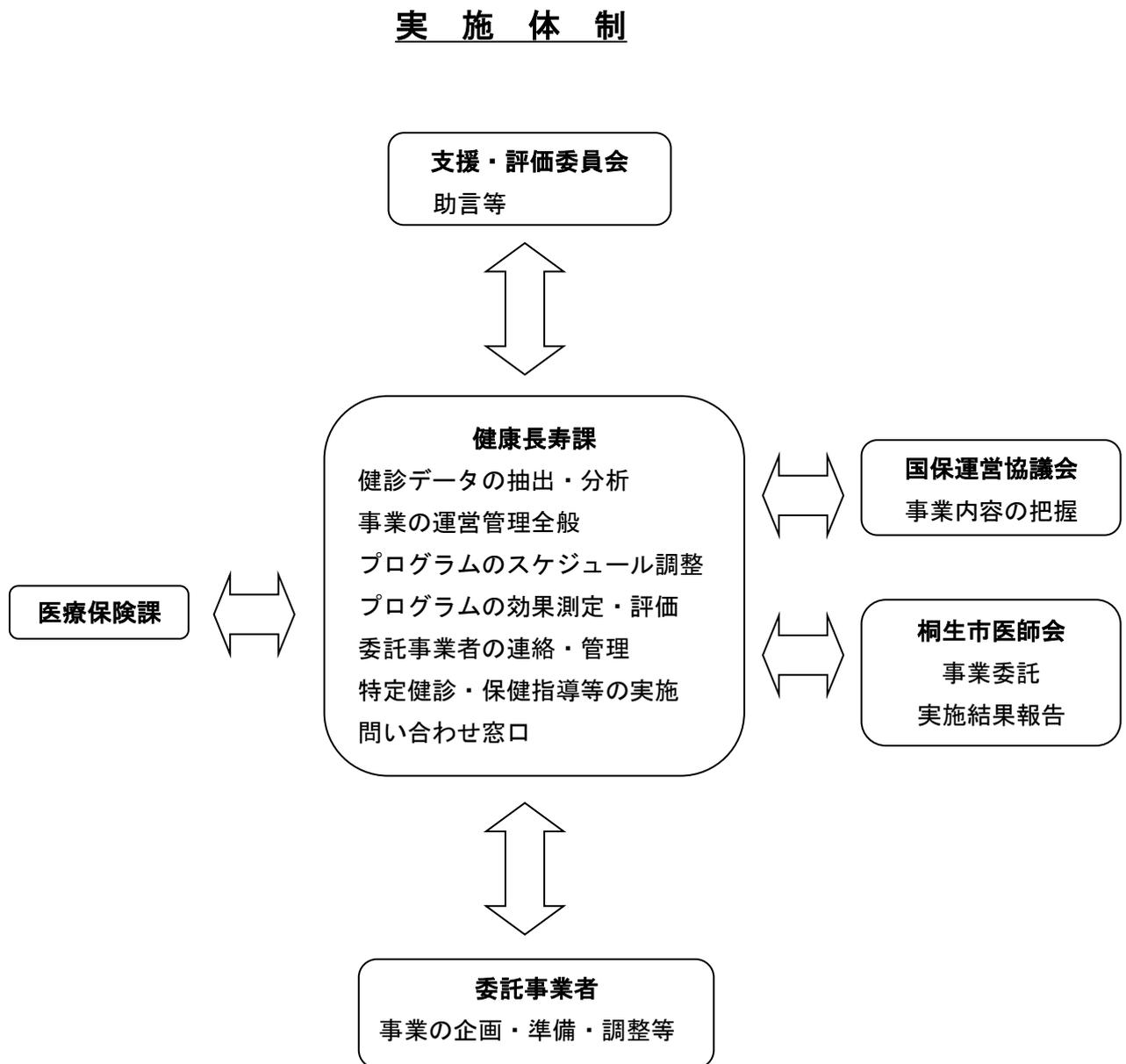
実施マニュアルのもと、各地区担当が責任を持ち、指導を行った。訪問実施率、受診行動の変容者は増加している。

●目標（令和2年度以降）

重複・多剤投与者への通知を検討する他、お薬手帳の利用を推奨しながら、更なる対象者の行動変容を図りたい。更に令和4年度からの3年間は重複多剤者指導受診勧奨事業を実施し、受診習慣変容者率を高めていくこととする。

4 関係部署との連携について

各関係部署と連携を図り問題を抽出し、抽出した課題から保健事業を展開していきたい。



5 参考資料 別添参照